

「携帯サイト構築にかかるバリアフリー情報調査事業の調査協力」報告書

日時	現地調査:平成22年8月2日～5日 13時～17時 報告会:平成22年8月6日 16時30分～18時30分
会場	現地調査:本厚木駅周辺飲食店 報告会:かながわ県民センター 1502室
主催協力	特定非営利活動法人神奈川県障害者自立生活支援センター(KILC) (社)神奈川県建築士会技術支援委員会福祉部会
講師	産業能率大学情報マネジメント学部 齊藤進教授
担当	福祉部会 下村 旭
参加者 (KILCを除く)	8月2日 氷室敦子、森雄治 8月3日 佐藤里紗、松本美佳子 8月4日 黒田協子、吉原直美、菊池紀代子、畠山正広 8月5日 大川友理枝、桶師徳行、下村旭 8月6日 下村旭、氷室敦子、森雄治、佐藤里紗、松本美佳子、黒田協子、 吉原直美、菊池紀代子、畠山正広、大川友理枝、大西正行、村島正章

調査結果 8月6日 報告会抜粋	<p><b>【建築士会からの意見・感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子を利用する女性にとって特にトイレが使えないのは心細いのではないかと。</li> <li>・本厚木駅の周辺道路は車いす利用者には使いやすい状況と思われる。</li> <li>・しかし排水処理の関係か、建物前には2段程度の階段が多く存在する。</li> <li>・ファーストフード店は客が少ないときに出せる折りたたみのテーブル・いすがあると良いのでは。</li> <li>・水周りの関係からどうにも改善ができない、通路の幅も狭い、トイレも昔と変わらず60cmという開口部が多く存在するのは、店側が車いす利用者を意識していないからだろう。</li> <li>・入口を工夫すれば車椅子も入れる店もあるが、トイレは手伝っても利用できない店が多かった。</li> <li>・通路幅が狭いだけでなく、消火栓の前に荷物が多く積んであるなどの危険な店も目立った。</li> <li>・いたるところにある水勾配はこれほど要らないのではないかと感じた。</li> </ul> <p><b>【齊藤教授による総括】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①今回調査した67店のうち約3割がバリアフリー推奨店若しくは対応可能店であった。</li> <li>②まずは1階にある店舗のバリアフリー化をいかに図るかが重要ではないか。</li> <li>③制度の対象にならない店は、様々な客が来るという発想に変わってほしい。</li> <li>④本厚木では5年ほど前にスーパーバリアフリーモデル事業を行い、車道を上げて歩道を限りなくフラット化した。地下道は古く、現在では使う人が少ないので再整備が必要だろう。</li> <li>⑤チェーン店はオーナーの考え方で大きく変わるので、バリアフリー化をお願いしてはどうか。</li> <li>⑥車椅子対応トイレは、あるエリアの中で近くに使えるところがどこにあるかを情報として提供するのがよいのではないかと(店内のトイレをバリアフリー化することは時間がかかる)。</li> </ol> <p><b>【KILCからの意見】</b></p> <p>駅やコンビニなどにあるバリアフリー対応のトイレ情報は携帯サイトのリンクで考えている。公園のトイレなど防犯上施錠されていることもあり、使えるかのチェックが必要だろう。</p>
-----------------------	--

調査模様	   
------	---